

シンポジウム②糖尿病透析予防の地域展開に向けて：
病院から地域へ（専門医から非専門医への展開を目指して）

地域連携を基盤にした透析予防 から地域への展開へ（1）



2022年2月13日

大館市立総合病院 内分泌・代謝・神経内科 池島 進 

大館市の糖尿病重症化予システム

大館市立総合病院
(透防管・100点加算)

糖尿病医療連携パス

推定塩分摂取量
(処方箋)を利用
した減塩指導

ハイリスク患者の適正受診
(透析予防連携パス)

診療所

門前薬局

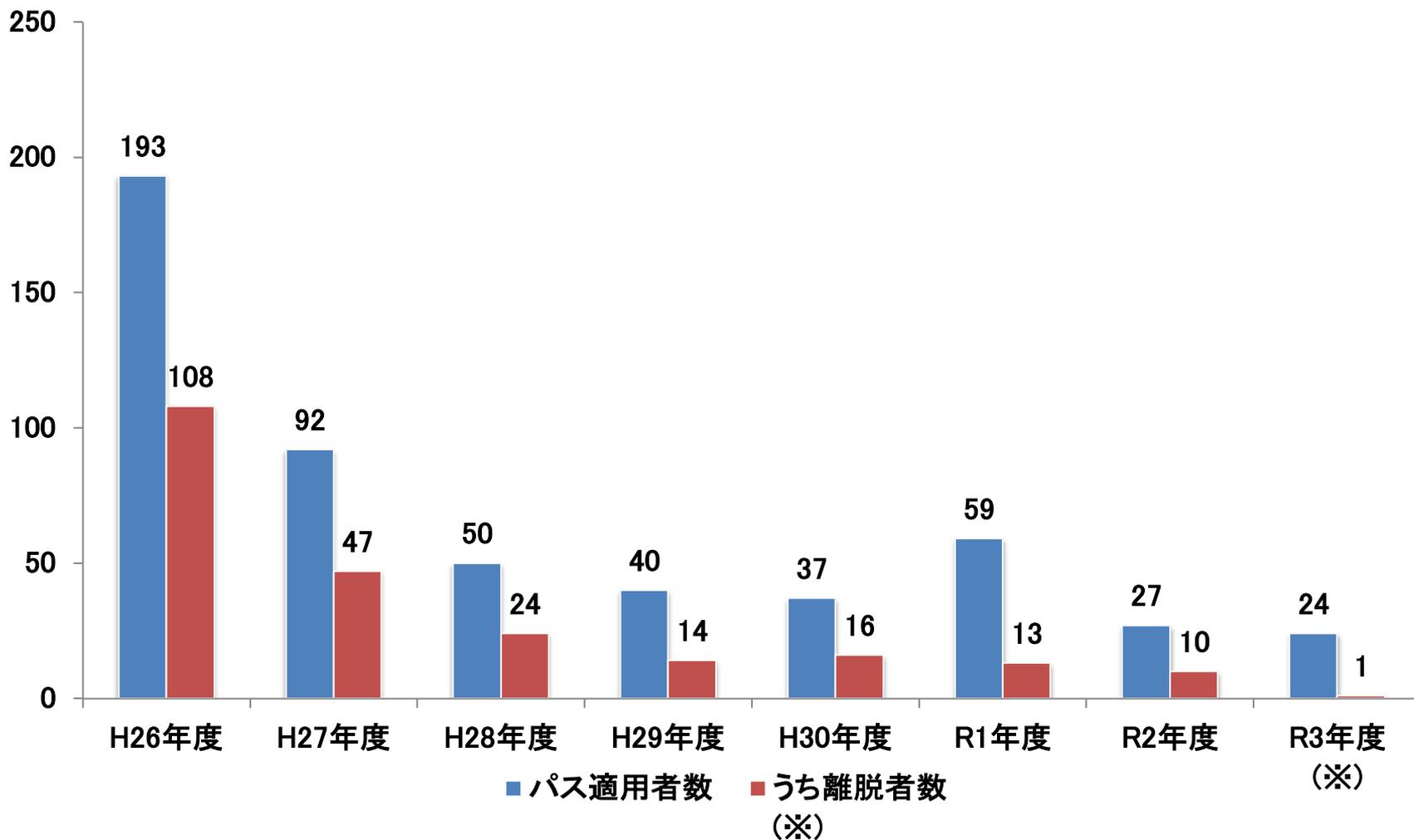
薬局

介護・福祉

サポーター制度

糖尿病地域連携パス適用状況

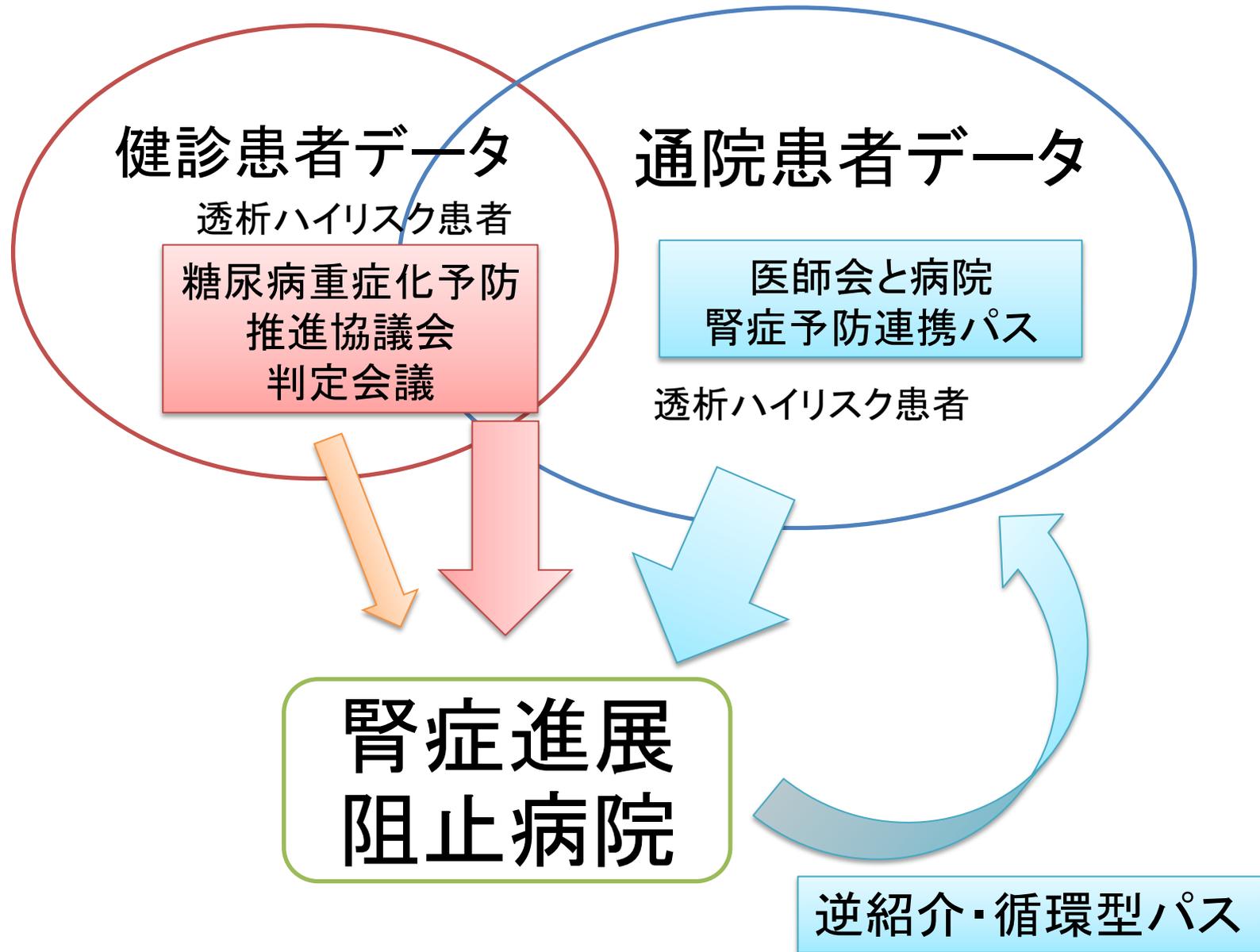
(参加施設： 17診療所 2病院)



※令和3年度及び離脱者数の数値は、令和3年12月末現在

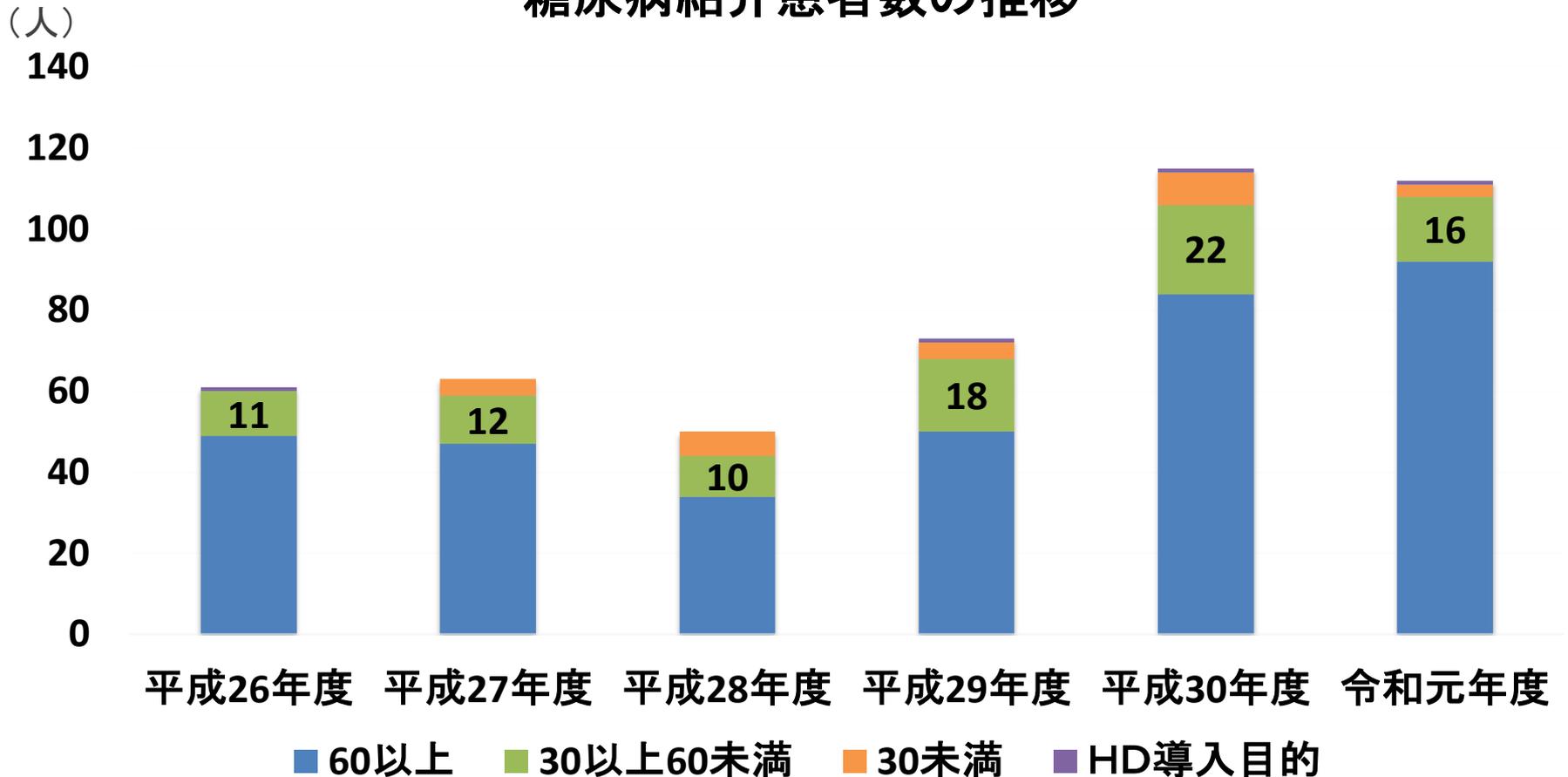


適正受診のシステム化



第3課題：大館市のハイリスク患者の適正受診

糖尿病紹介患者数の推移



糖尿病腎症の紹介患者は増加傾向

⇒病診連携を通じて、軽症者はかかりつけ医で 合併症発症者(透
防管対象)は当院でという医療連携体制が進みつつある



2019年12月23日 第2報

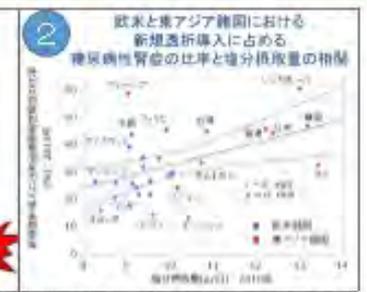
第3回生涯教育への たくさんのご参加 ありがとうございました

11月13日生涯教育には多数の先生方にご参加いただきありがとうございました。池島先生のご講演にて「減塩の必要性・重要性」「薬剤師に求められていること」を理解するよい機会となりました。超ダイジェスト版で要旨を掲載しますので、ぜひご覧ください！

大館市薬剤師会 減塩部発足

1 食塩摂取量の目標値改訂

	男性	女性
2000年値	10.0g未満	8.0g未満
2010年値	9.0g未満	7.0g未満
2015年値	8.0g未満	7.0g未満
2020年値	7.5g未満	6.5g未満
実際の摂取量(秋田)	11.6g	9.6g
実際の摂取量の差	4.1g	3.1g



2020年版の食塩摂取量の目標値が改訂されますが、私たち秋田県での摂取量はそれを大きく上回っています(図①)。塩分の過剰摂取は、高血圧を引き起こすだけでなく、糖尿病性腎症の発症因子となるほか、それに伴う透析導入にも関係があるとわかっています(図②)。

3 透析医療費

- ・透析一人当たり **500万円**
- ・透析導入患者増加率増加率 **150人/年**
- ・500万×150人＝**7億5千万円/年間**
- ・500万×1人＝**1億円/人**

4 「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」

5 透析導入患者の増加率

- ・透析導入患者の増加率
- ・透析導入患者の増加率

6 塩分制限薬はARBの腎保護作用を消失させる

7 減塩が重要！

- ・塩分摂取量が14～16g/日
- ・減塩が重要！

8 塩分制限薬はARBの腎保護作用を消失させる

9 透析導入患者の増加率

- ・透析導入患者の増加率
- ・透析導入患者の増加率

健康寿命を延ばすためには、慢性疾患の重症化予防が大切になります。また、増え続ける医療費を削減し、地域医療を守るためには、糖尿病性腎症による透析導入を減らす必要があります(図③)。H28に厚生労働省で糖尿病成人症重症化予防プログラムが策定されました(図④)。重症化予防における腎保護治療には、SGLT-2阻害剤・GLP-1製剤・ARBが用いられますが、塩分過剰摂取はそれらの効果を消失させることがわかっており、「減塩」が重要であると言えます(図⑤～⑦)。大館市立総合病院の院外処方箋に推定塩分摂取量が検査値データとして記載されるようになり、今後は特定健診・開業医でも塩分摂取量の測定が期待されます。その際、地域の他職種が連携して塩分指導をしていく事が重要であり、薬剤師は図⑧にあるような利点を生かし、特に図⑨の大部分に該当する患者への積極的な減塩指導を行うことが求められています。

秋田県北 糖尿病スキ



Abbott Japan Diabetes Care

ピツ!とかざして パツとわかる血糖値!!
痛みからさよならFreeStyleリブレ講座

- 日時** 2021年7月16日(金) 19:00~20:30
- 会場** 大館市立総合病院 会議室
〒017-8550 秋田県大館市豊町3-1
- 講演** 『フラッシュグルコースモニタリングシステム (FGM) FreeStyleリブレとは?』(仮)

大館市立総合病院
内分泌・代謝・神経内科
診療部長

池島 進 先生

参加資格: 糖尿病の患者さんにかかわるすべてのコメディカルスタッフ
会当日、希望者全員にリブレセンサーを装着するデモンストレーションを行います。
スマートフォンをお持ちの方は、ご持参ください。

主催: アボットジャパン合同会社 後援: 大館市立総合病院

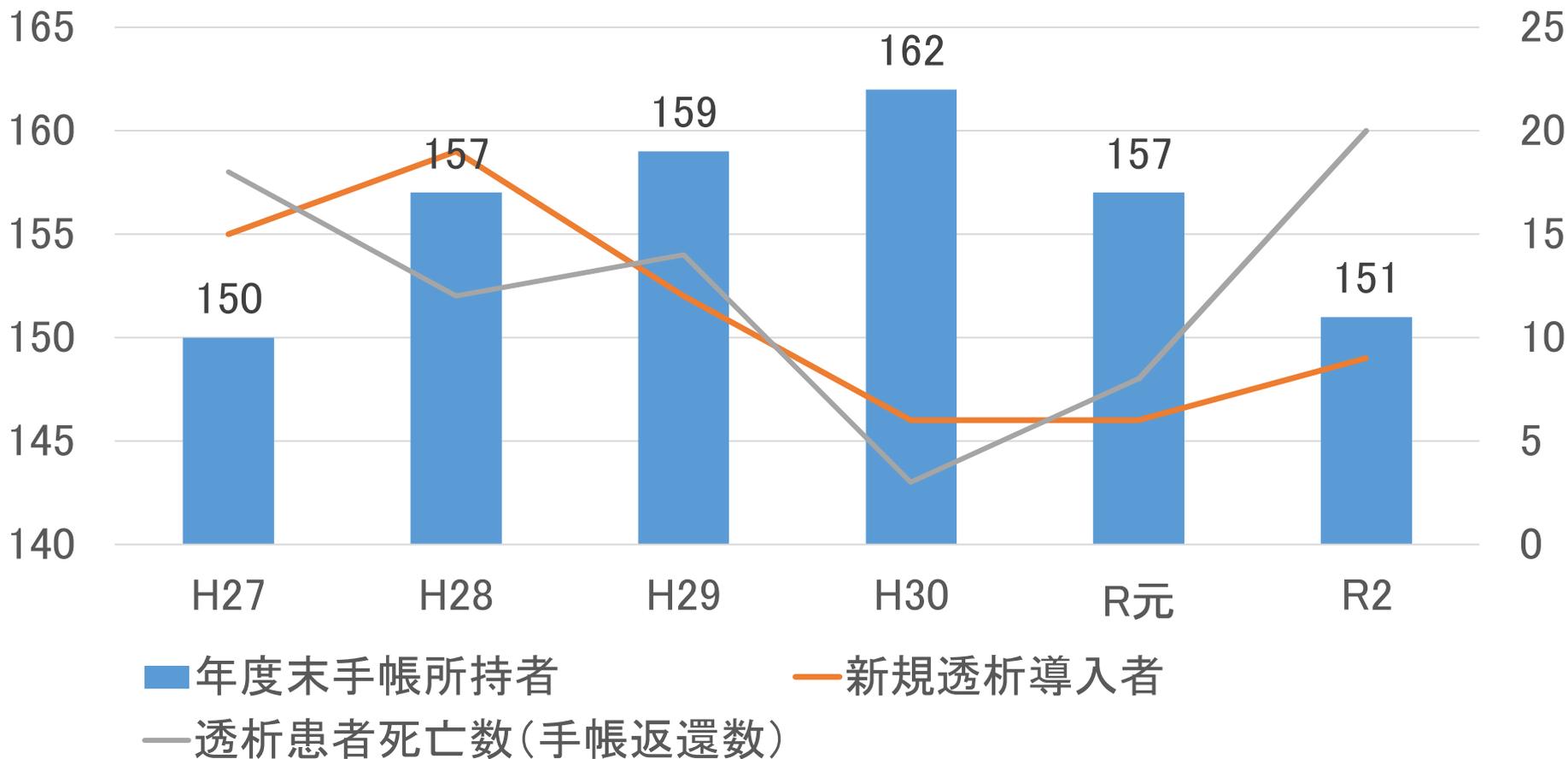


介護職含め

多職種サポーター制度を開始



大館市 身体障害者手帳保持者/人工透析患者の推移



大館市の新規透析患者は平成28年度から国保の患者を中心に減少に転じ、H30年から透析患者の減少に転じている？

* 透析患者でも障害者手帳を申請しない、亡くなった際の返納がスムーズに行われていないなどから厳密には透析患者数＝障害者手帳所持者数とならない可能性があります。

大館市の透析予防連携システム

大館市立総合病院
(透防管・100点加算)

糖尿病医療連携パス

推定塩分摂取量
(処方箋)を利用
した減塩指導

ハイリスク患者の適正受診
(透析予防連携パス)

診療技術移転
(定期的勉強会)

門前薬局

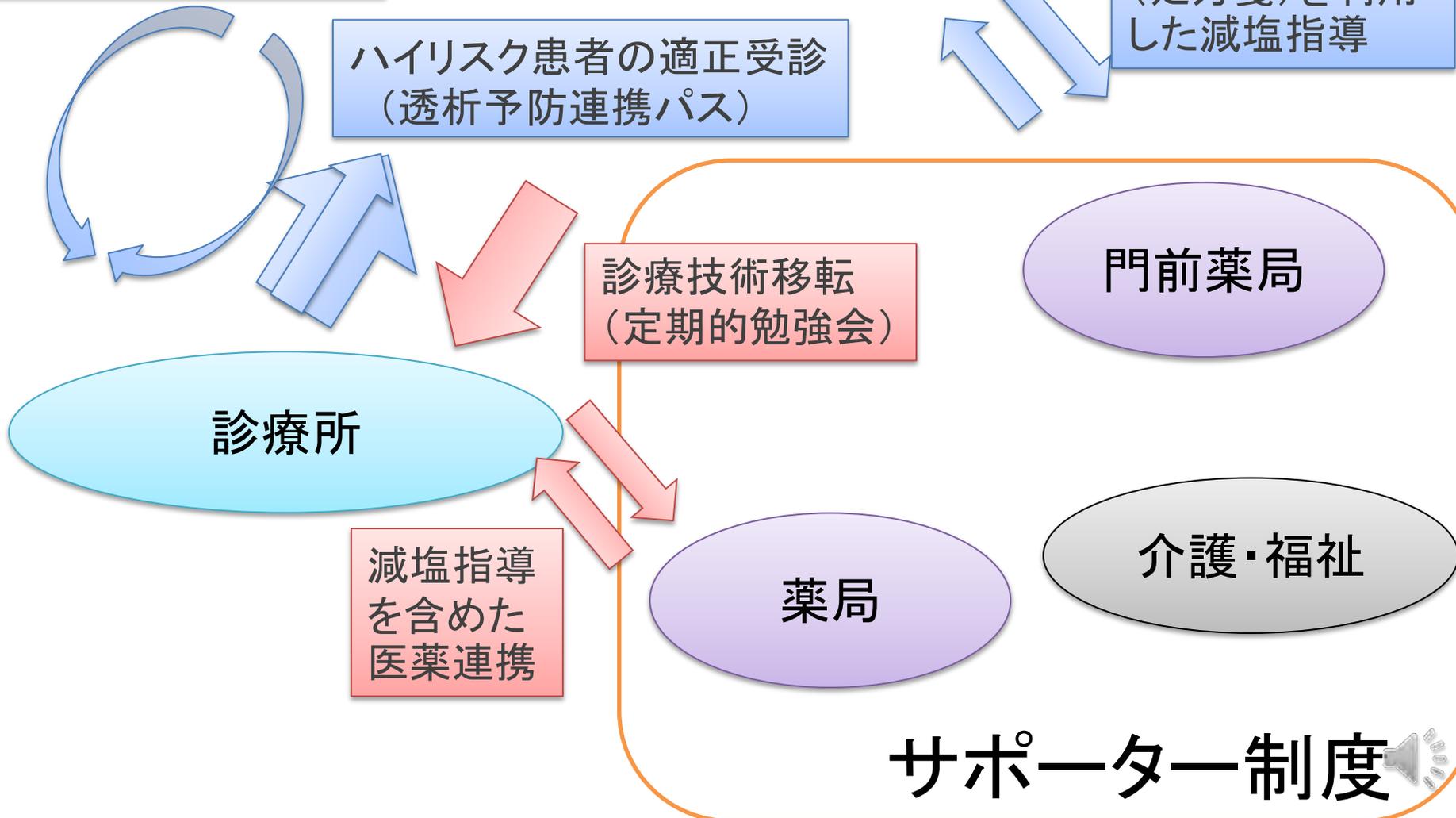
診療所

介護・福祉

減塩指導
を含めた
医薬連携

薬局

サポーター制度



診療技術移転

①循環型医療連携パスを通じた技術移転

②大館北秋田糖尿病研究会（2回/年 計12回開催）

過去テーマ：高齢者糖尿病 医科歯科連携 療養指導
糖質制限 薬物（SGLT-2）サルコペニア・フレイル 重症化予防

③糖尿病連携パス勉強会（1-2回/年）

連携パスの状況説明・症例検討

大館市区透析予防の取り組みについて

GLP-1受容体作動薬やSGLT-2阻害薬について

COVID-19について など

→今後、回数を増やして強化していく予定

医薬連携の強化（減塩指導を含めて）

①大館市立総合病院の門前薬局を中心として、処方箋（推定塩分摂取量記載）を利用した減塩指導

②大館市薬剤師会全体での、減塩指導を中心として医薬連携の強化

→2022年4月頃に、大館薬剤師会生涯教育定期勉強会で『かかりつけ医と医薬連携』をテーマに講演会を企画中。これをキックオフとして医薬連携を強化していく予定



ご清聴ありがとうございました

